



令和8年10月15日
第910号

一般財団法人日本遺族会
〒100-0044 東京都千代田区
九段南一丁目六番五号
九段会館テラス四階
電話 03-3261-5521
振替 00160-6-25389
編集 重井 敦
発行 重井 敦
毎月1回15日発行
定価 1部130円(税込)

日本遺族会とは、英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

研修会、講話会の充実、中でも国際親善交流の推進として小学校3校を建設寄贈したミャンマーでの実施を提案し、了承された。

この他、英霊顕彰、処遇改善、国の委託・補助事業の経過、今後の展開、創立80周年式典について報告された。

イスラエルが2023年10月にパレスチナのガザ地区へ地上侵攻を開始してから3年が経過した。報道で取り上げられる頻度は減り、現状が見えにくく、世間の関心も薄れているように感じる。しかし、現実には今も空爆による犠牲者は増え続け、多くの住民が倒壊した建物や仮設の避難所での生活を余儀なくされている。▼もともとイスラエルがガザ地区に壁を建設したのは2007年。それ以来、人や物の出入りが制限された封鎖状態で、「天井のない監獄」と言われている。人道的に極めて問題があるのは明らかだが、人種、宗教、歴史といった要因が複雑に絡み合い平和的な解決への糸口は見えないまま、「監獄の人々」の人權は置き去りにされている。▼都内の千住神社には当時のままの防空壕が残っている。爆弾が降り注ぐ中、狭い壕の中にいる当時の状況を想像すると息苦しさで胸が締めつけられるが、今ガザの人々は日々その恐怖にさらされている。▼千鳥ヶ淵の北の丸公園にはB29を迎え撃つために設置された高射機関砲の台座跡がある。説明表示もなく、桜が咲く頃には花見客がベンチ代わりに腰をおろして、戦争の遺構を感じさせない平和な光景である。戦争があったことを忘れるほど平和な日常が、いつかガザの人たちにも訪れるのだろうか。(S)

令和9年版
「靖国」カレンダーを
家庭にかかげましょう

申し込み方法
維持会費 一口七〇〇円(送料別途)

①「英霊」にこたえる会
靖国カレンダー業務室
〒100-0073
東京都千代田区九段北三ー一ー
靖国神社遊就館内
電話 〇三ー三六四ー四六〇
FAX 〇三ー三六四ー七四一五
E-mail: eirei@deluxe.ocn.ne.jp
HP: https://www.eirei-kotaeukai.com

②別途申込書で、お住まいの「英霊」にこたえる会都道府県本部宛。
部数は、一部(一口)から取り扱っており、三倍以上は「都道府県本部」または「靖国カレンダー業務室」にお問い合わせ下さい。

令和9年度 平和の語り部

次世代育成と学校講話に重点 記憶継承牽引団体の姿勢を示す

令和9年度平和の語り部事業計画が常務理事会で了承された。次年度予算の概算要求に本年度2千万円増の2.8億円が計上された語り部事業は、学校等、学生向けの講話に重点を置き、体験者から学ぶ次世代育成に努める。そして本会創立80周年となる次年度は記憶の継承を牽引する団体と示すべく、年間を通し本部支部が一元となって切れ目なく事業を展開する。

令和9年度政府予算の概算要求が公表され、本年度上半期の実績を報告。会の要望は概ね計上された。中でも最重要項目である平和の語り部事業(以後、語り部事業)に2千万円増の2.8億円が計上されたことは、語り部事業を通して、記憶の継承の重要性が認識され、遺族会の活動が評価

された証左とし、今年度上半期の実績を報告。会の要望は概ね計上された。中でも最重要項目である平和の語り部事業(以後、語り部事業)に2千万円増の2.8億円が計上されたことは、語り部事業を通して、記憶の継承の重要性が認識され、遺族会の活動が評価

【令和9年度事業計画】
令和9年9月に創立80周年を迎える次年度は、開し、各種取材を受けた。全体で144件。全国紙掲載は2回。中でも8月20日読売新聞紙面では遺児慰霊友好親善の語り部研修を取上げ、確かな育成に繋がっていると評価。国際親善交流を進める本会の活動が紹介された。

併せて次世代育成を主眼に置き、本会青年部結成100周年記念企画「展覧会」を開催し、各都道府県本部に話を加え、地域の追悼式、慰霊祭など戦没者慰霊を通し、記憶の継承を社会的課題と提起し、牽引する団体としての姿勢を示すべく、全国で2500回を目標とする今年を上回る実施回数を目指す。

【令和9年度事業計画】
令和9年9月に創立80周年を迎える次年度は、開し、各種取材を受けた。全体で144件。全国紙掲載は2回。中でも8月20日読売新聞紙面では遺児慰霊友好親善の語り部研修を取上げ、確かな育成に繋がっていると評価。国際親善交流を進める本会の活動が紹介された。

併せて次世代育成を主眼に置き、本会青年部結成100周年記念企画「展覧会」を開催し、各都道府県本部に話を加え、地域の追悼式、慰霊祭など戦没者慰霊を通し、記憶の継承を社会的課題と提起し、牽引する団体としての姿勢を示すべく、全国で2500回を目標とする今年を上回る実施回数を目指す。

併せて次世代育成を主眼に置き、本会青年部結成100周年記念企画「展覧会」を開催し、各都道府県本部に話を加え、地域の追悼式、慰霊祭など戦没者慰霊を通し、記憶の継承を社会的課題と提起し、牽引する団体としての姿勢を示すべく、全国で2500回を目標とする今年を上回る実施回数を目指す。

併せて次世代育成を主眼に置き、本会青年部結成100周年記念企画「展覧会」を開催し、各都道府県本部に話を加え、地域の追悼式、慰霊祭など戦没者慰霊を通し、記憶の継承を社会的課題と提起し、牽引する団体としての姿勢を示すべく、全国で2500回を目標とする今年を上回る実施回数を目指す。

併せて次世代育成を主眼に置き、本会青年部結成100周年記念企画「展覧会」を開催し、各都道府県本部に話を加え、地域の追悼式、慰霊祭など戦没者慰霊を通し、記憶の継承を社会的課題と提起し、牽引する団体としての姿勢を示すべく、全国で2500回を目標とする今年を上回る実施回数を目指す。



日本遺族会青年部結成10周年を記念した語り部大会・集いの計画が了承された。(写真は平成29年3月、参議院会館での日本遺族会青年部結成式)

令和9年度 遺族処遇改善項目	
【令和8年8月31日 概算要求】	
恩給法関係	
1 恩給費	327億円
厚生労働省関係	
1 援護年金	19億円
2 戦没者等の遺族に対する特別弔慰金の支給	11億円
3 遺骨収集事業等の推進	39億円
(1) 遺骨収集事業	29億円
・硫黄島における遺骨収集事業	13億円
・海外等における遺骨収集事業	14億円
・法人運営経費	2億円
(2) 海外公文書館の資料収集	1,900万円
(3) 遺骨の鑑定	9.3億円
(4) 遺骨・遺留品の伝達	1.1億円
うち、戦没者等の遺留品の返還に伴う調査一式	(1,800万円)
4 戦没者の慰霊・記憶の継承	18億円
(1) 慰霊事業	4.8億円
・全国戦没者追悼式の実施	2.5億円
・慰霊巡拝	1.3億円
・政府建立慰霊碑の補修等	1.1億円
(2) 平和の語り部事業	2.8億円
(3) 民間慰霊碑の調査・移設等	6,900万円
・海外・国内民間建立慰霊碑調査等	3,600万円
・国内民間建立慰霊碑の移設等	3,300万円
(4) 地域における慰霊と記憶継承の検討の支援	1,100万円
(5) 昭和館事業	9.9億円

※四捨五入しているため、各欄の増減が一致しない場合がある

駐比新大使に
北川氏が着任

9月1日、外務省の北川克郎氏(前欧州局長)が、同月18日付で駐フィリピン日本大使に着任することが決まり、同省の宮本新吾審議官(前南部アジア部長)とともに水落敏実会長を訪問した。水落会長は、昨年度に終了した戦没者遺児によ

慰霊事業の進め方について意見交換を行った。

慰霊友好親善事業に
触れ、フィリピンには長年にわたり多くの遺児がおり、父達の慰霊を果たすことができたこと述べ、歴代の駐比日本大使に対する謝意を伝えた。

一方、遺骨収集事業が停止している現在の状況について、早期再開への強い要望を示すとともに、今後の同国における慰霊事業の進め方について意見交換を行った。

英霊の御心を
次の世代に
伝えましょう

【令和9年度事業計画】
令和9年9月に創立80周年を迎える次年度は、開し、各種取材を受けた。全体で144件。全国紙掲載は2回。中でも8月20日読売新聞紙面では遺児慰霊友好親善の語り部研修を取上げ、確かな育成に繋がっていると評価。国際親善交流を進める本会の活動が紹介された。

併せて次世代育成を主眼に置き、本会青年部結成100周年記念企画「展覧会」を開催し、各都道府県本部に話を加え、地域の追悼式、慰霊祭など戦没者慰霊を通し、記憶の継承を社会的課題と提起し、牽引する団体としての姿勢を示すべく、全国で2500回を目標とする今年を上回る実施回数を目指す。

併せて次世代育成を主眼に置き、本会青年部結成100周年記念企画「展覧会」を開催し、各都道府県本部に話を加え、地域の追悼式、慰霊祭など戦没者慰霊を通し、記憶の継承を社会的課題と提起し、牽引する団体としての姿勢を示すべく、全国で2500回を目標とする今年を上回る実施回数を目指す。

併せて次世代育成を主眼に置き、本会青年部結成100周年記念企画「展覧会」を開催し、各都道府県本部に話を加え、地域の追悼式、慰霊祭など戦没者慰霊を通し、記憶の継承を社会的課題と提起し、牽引する団体としての姿勢を示すべく、全国で2500回を目標とする今年を上回る実施回数を目指す。

併せて次世代育成を主眼に置き、本会青年部結成100周年記念企画「展覧会」を開催し、各都道府県本部に話を加え、地域の追悼式、慰霊祭など戦没者慰霊を通し、記憶の継承を社会的課題と提起し、牽引する団体としての姿勢を示すべく、全国で2500回を目標とする今年を上回る実施回数を目指す。

併せて次世代育成を主眼に置き、本会青年部結成100周年記念企画「展覧会」を開催し、各都道府県本部に話を加え、地域の追悼式、慰霊祭など戦没者慰霊を通し、記憶の継承を社会的課題と提起し、牽引する団体としての姿勢を示すべく、全国で2500回を目標とする今年を上回る実施回数を目指す。

【令和9年度事業計画】
令和9年9月に創立80周年を迎える次年度は、開し、各種取材を受けた。全体で144件。全国紙掲載は2回。中でも8月20日読売新聞紙面では遺児慰霊友好親善の語り部研修を取上げ、確かな育成に繋がっていると評価。国際親善交流を進める本会の活動が紹介された。

併せて次世代育成を主眼に置き、本会青年部結成100周年記念企画「展覧会」を開催し、各都道府県本部に話を加え、地域の追悼式、慰霊祭など戦没者慰霊を通し、記憶の継承を社会的課題と提起し、牽引する団体としての姿勢を示すべく、全国で2500回を目標とする今年を上回る実施回数を目指す。

併せて次世代育成を主眼に置き、本会青年部結成100周年記念企画「展覧会」を開催し、各都道府県本部に話を加え、地域の追悼式、慰霊祭など戦没者慰霊を通し、記憶の継承を社会的課題と提起し、牽引する団体としての姿勢を示すべく、全国で2500回を目標とする今年を上回る実施回数を目指す。

併せて次世代育成を主眼に置き、本会青年部結成100周年記念企画「展覧会」を開催し、各都道府県本部に話を加え、地域の追悼式、慰霊祭など戦没者慰霊を通し、記憶の継承を社会的課題と提起し、牽引する団体としての姿勢を示すべく、全国で2500回を目標とする今年を上回る実施回数を目指す。

併せて次世代育成を主眼に置き、本会青年部結成100周年記念企画「展覧会」を開催し、各都道府県本部に話を加え、地域の追悼式、慰霊祭など戦没者慰霊を通し、記憶の継承を社会的課題と提起し、牽引する団体としての姿勢を示すべく、全国で2500回を目標とする今年を上回る実施回数を目指す。

併せて次世代育成を主眼に置き、本会青年部結成100周年記念企画「展覧会」を開催し、各都道府県本部に話を加え、地域の追悼式、慰霊祭など戦没者慰霊を通し、記憶の継承を社会的課題と提起し、牽引する団体としての姿勢を示すべく、全国で2500回を目標とする今年を上回る実施回数を目指す。

【令和9年度事業計画】
令和9年9月に創立80周年を迎える次年度は、開し、各種取材を受けた。全体で144件。全国紙掲載は2回。中でも8月20日読売新聞紙面では遺児慰霊友好親善の語り部研修を取上げ、確かな育成に繋がっていると評価。国際親善交流を進める本会の活動が紹介された。

併せて次世代育成を主眼に置き、本会青年部結成100周年記念企画「展覧会」を開催し、各都道府県本部に話を加え、地域の追悼式、慰霊祭など戦没者慰霊を通し、記憶の継承を社会的課題と提起し、牽引する団体としての姿勢を示すべく、全国で2500回を目標とする今年を上回る実施回数を目指す。

併せて次世代育成を主眼に置き、本会青年部結成100周年記念企画「展覧会」を開催し、各都道府県本部に話を加え、地域の追悼式、慰霊祭など戦没者慰霊を通し、記憶の継承を社会的課題と提起し、牽引する団体としての姿勢を示すべく、全国で2500回を目標とする今年を上回る実施回数を目指す。

併せて次世代育成を主眼に置き、本会青年部結成100周年記念企画「展覧会」を開催し、各都道府県本部に話を加え、地域の追悼式、慰霊祭など戦没者慰霊を通し、記憶の継承を社会的課題と提起し、牽引する団体としての姿勢を示すべく、全国で2500回を目標とする今年を上回る実施回数を目指す。

併せて次世代育成を主眼に置き、本会青年部結成100周年記念企画「展覧会」を開催し、各都道府県本部に話を加え、地域の追悼式、慰霊祭など戦没者慰霊を通し、記憶の継承を社会的課題と提起し、牽引する団体としての姿勢を示すべく、全国で2500回を目標とする今年を上回る実施回数を目指す。

併せて次世代育成を主眼に置き、本会青年部結成100周年記念企画「展覧会」を開催し、各都道府県本部に話を加え、地域の追悼式、慰霊祭など戦没者慰霊を通し、記憶の継承を社会的課題と提起し、牽引する団体としての姿勢を示すべく、全国で2500回を目標とする今年を上回る実施回数を目指す。

遺骨収集

硫黄島派遣団が23柱を送還

天山付近・南海岸付近で収容

日本戦没者遺骨収集推進協会主催の硫黄島戦没者遺骨収集派遣(第2次)を実施し、本会からは3人が参加協力した。9月4日千島ヶ淵戦没者墓苑で遺骨引渡式が挙行され、神谷政幸厚生労働大臣政務官をはじめ遺族代表、国会議員、関係団体代表等が見守る中、収容された23柱の遺骨が派遣団員から厚生労働省へ引き渡された。

本年度2回目となる硫黄島戦没者遺骨収集派遣(第2次)は、昨年9月の噴火による降灰の影響で、硫黄島では島内施設が被災し、燃料や水の供給に支障が生じるなど生活環境に影響を及ぼしているため、派遣団員の規模を第1次派遣に引き縮小して行われた。



壕内の土砂をふるいにかけ遺骨を捜索する派遣団員 = 8月26日、硫黄島で

骨収容作業を行った。猛烈な日差しと暑さの中、



離島の際に硫黄島基地自衛隊員から見送りを受ける派遣団員 = 9月3日、硫黄島で

団員はすべて手作業で地表や壕の土砂を丁寧に取り除き、細心の注意を払いながら遺骨の発見に努めた。

その結果、北部天山付近の地表7カ所と壕1カ所から8柱、南海岸付近の前回第1次派遣で発見した壕から15柱の遺骨を収容し計23柱を確認した。

遺骨収集 相次いで実施

日本戦没者遺骨収集推進協会

日本戦没者遺骨収集推進協会は7月から9月にかけて、海外の旧戦域で現地調査および遺骨収集派遣を相次いで実施した。本会からは8地域に11派遣、延べ13人が参加し各地域での遺骨収集活動に協力した。

ソロモン諸島現地調査 派遣第1次 7月22日～8月12日 間ツラギ島3柱、ガダルカナル島31柱、計34柱収容。

ピスマーク諸島現地調査 派遣第1次 7月25日～8月12日 間西ニューブリテン州収容なし。

令和8年度 日本戦没者遺骨収集推進協会主催 現地調査・遺骨収集実施表

派遣名	実施地域	実施期間	本会参加人数	収容柱数
マリアナ諸島 現地調査 第2次	サイパン島・グアム島	7月19日～8月1日	2人	20柱
ソロモン諸島 現地調査 第1次	ガダルカナル島・ツラギ島・ニュージョージア島	7月22日～8月12日	1人	34柱
ピスマーク諸島 現地調査 第1次	ニューブリテン島	7月25日～8月12日	1人	-
モンゴル(ノモンハン事件) 遺骨収集	ハルハゴル村	7月28日～8月12日	1人	12柱
東部ニューギニア 現地調査・遺骨収集 第2次	ウエワク・アイタバ	7月29日～8月12日	1人	2柱
マリアナ諸島 現地調査 第3次	テニアン島	8月20日～9月1日	中止	中止
パラオ諸島 現地調査 第3次	ペリリュウ島	8月22日～9月6日	1人	30柱
インドネシア 現地調査 第1次	モロタイ島	8月30日～9月12日	1人	-
ウォーレイアイ(メレヨン) 環礁 現地調査・遺骨収集	メレヨン環礁	9月1日～9月9日	1人	10柱
マリアナ諸島 現地調査 第4次	テニアン島	9月8日～9月18日	1人	4柱
パラオ諸島 現地調査第4次・遺骨収集 第1次	アングウル島	9月9日～9月24日	2人	1柱
ピスマーク諸島 現地調査 第2次	マヌス島・ブーゲンビル島	9月16日～9月30日	1人	1柱

柱となり、戦没者概数約2万1900人)に対する収容は依然として道半ばである。国の責務として、一柱でも多くの遺骨が一日も早く故郷へお迎えできるよう、本会は今後も推進協会への派遣協力積極的に進めていく方針である。

収容

モンゴル(ノモンハン事件) 遺骨収集派遣7月28日～8月12日 間ハルハゴル村12柱収容。その他、パラオ諸島で現地調査派遣第3次は、8月22日～9月6日 間東セビック州で2柱

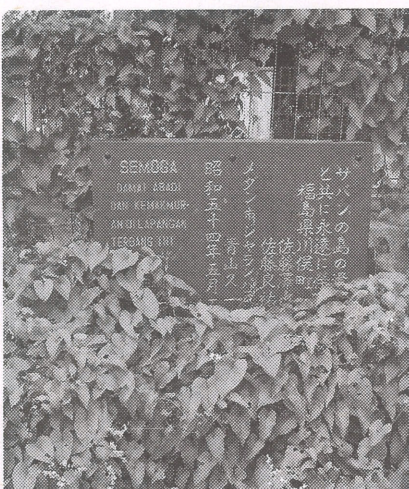
16日間実施、ペリリュウ島の集団埋葬地(埋葬者数1086人) 30柱相当の遺骨収容、DNA鑑定用検体採取。現地調査派遣第4次・遺骨収集第1次派遣は、9月9日～9月24日 間アングウル島の集団埋葬地(埋葬者数358人) 1柱収容。マリアナ諸島現地調査派遣第2次は、7月19日～8月1日 間サイパン島で実施、20柱相当の収容なし。

遺骨収容、現地調査派遣第4次は9月8日～9月18日 間テニアン島で4柱収容。ウォーレイアイ(メレヨン) 環礁現地調査・遺骨収集派遣9月1日～9月9日 間メレヨン環礁で9日 間タガイラップ島8柱、ペリリュウ島2柱計10柱収容。インドネシア現地調査派遣第1次8月30日～9月12日 間モロタイ島

民間慰霊碑 海外で調査・移設事業を実施

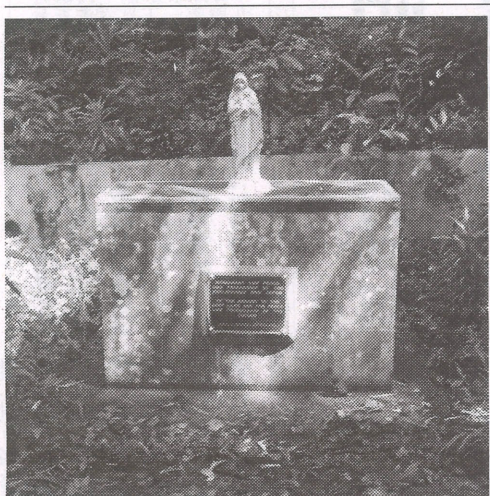
インドネシア・フリーピンで

インドネシア(調査事業) 島、ウェー島に建立されている慰霊碑を調査した。7月19日から27日の期間でジャワ島、スマトラ



雑草が生い茂り放置状態の慰霊碑 = 7月25日、ウェー島サバンで

タ、スラバヤ、マラン、ボゴールの慰霊碑6基、スマトラ島ではパレンバン、メダン、バンダ・アチエの慰霊碑21基、ウェー島ではサバンの慰霊碑2基の維持管理状況を確認した。現地の総領事館、日本人会、地権者等により概ね適切に管理されていたが、バンダ・アチエの1基、サバンの1基がそれぞれ放置状態にあり、地権者である州



戦闘があった山中に建立された慰霊碑 = 8月5日、パナイ島で

政府等と今後の対応について協議する必要がある。フリーピン(調査事業) 8月1日から7日の期間でセブ島、ネグロス島、パナイ島に建立されている慰霊碑を調査した。セブ島ではセブ市内、リロアン、カルメンで6基、ネグロス島では、バ

コロド、サガイで2基、パナイ島ではイロイロで2基の合計10基の維持管理状況を確認した。私有地に建立された慰霊碑について、地権者に聞き取りしたところ「近年は参拝者の訪問はないが当面はこのままにしておきたい」との意向を確認。私有地以外では、学校に複数の慰霊碑が建立されており、学校関係者は「参拝者の訪問はないが学生の歴史教育に活用している」との意向であった。その他、公園内に建



移設が完了した慰霊碑 = 8月27日、バリクパパンで

立されていた1基が開発に伴い撤去されていた。インドネシア(移設事業) 8月25日から29日の派遣で、ボルネオ島の東方リマンタン州で慰霊碑1

基を移設した。昨年度の調査で、サマリンダ市ロアアアの丘の上にある慰霊碑が、土砂崩れで清掃等の管理が困難になり、地権者から早

急に撤去を求められていた。8月27日、田子内進在スラバヤ日本総領事、バリクパパン市関係者等が参列し、慰霊碑移設慰霊式典を開催して、戦没者の冥福を祈った。式典後の協議では、市に対して永続的な慰霊碑の適切な管理を依頼した。

本会事業参加者の皆様へ

本会の事業に参加するに当たり、得た個人情報「個人情報保護法」の定めにより、厳重に扱います。日本遺族会の個人情報保護方針につきましてはホームページを参照されるか、本会にお問い合わせください。

長。父戦死後、母の実家
佐賀県伊万里市での暮ら
し。配給による食糧、物
資不足。定年後、慰霊巡
拝から遺骨収集へ協力。
マッチ箱を掲げ、角度に
より見え方が異なる。双
方の意見を受け入れ理解
することが平和を維持す
ると訴えた。

アドバイザーの講評。

福居一夫氏は各地の取組
に敬意。学年、自治体、
時間により内容の考慮を。
大石功氏は今出来ること
を重ねる努力、成果を自
治体へPR。久保秀義氏は
戦後を知る甥世代の講
話に期待。資金は自治体
から人的協力は遺族会が
惜しみなくと伝え自治体
との協働を訴えた。

平和の語り部
定期講話

高知県青年部が講話

家族の記憶から考える記憶継承

戦争体験者の遺族と次世代・学生が共に記憶の伝承に取り組む本部主催第19回定期講話会。次世代として語り部事業をけん引する高知県青年部の活動を紹介。出来ることを重ね学生を巻き込んだ活動を模索。遺児、次世代、学生等が集い、次世代による記憶継承の方向性について意見交換。全国から体験者、次世代が参加した講話会を伝えたい。

9月12日の第19回定期講話会。高知県青年部副部長が講話。講話テーマは「家族の記憶」。次世代が継承する方途について中岡美佳

心残りはありません

陸軍歩兵伍長 神野 勇

昭和十五年四月二十三日
中華民国・山西省石右嶺にて戦死
愛媛県西宇和郡三崎村出身 二十五歳

御無音に打すぎまして申し訳ありません。お母さんからの御便りで御無事の御事だけは承つて居ります。北支に來てからもう半年に成つて参りました。早いものですね。楽原様より時々御慰問品を頂きまして不自由はありません。寫眞が出来ましたから御送りします。

可愛い、息子の寫眞ですから大切にしまつて置いて下さい。あんまり可愛い、様な面でもありませんが。只し持った刀は勿論借り物ですから其の点悪しからず。來ル拾七日に第一線に向ケ出發致します。

待ちにまつた時が來たのです。心残りはありません。(中略) 生還は期して居りません。御世話に成りつばなですが御許し下さい。

急いので詳しい事は書けませんが、御健康を神佛に御願して居ります。どうか私が立派な働きの出来る様見て居て下さい。

心はすみ切つて、秋の空の様です。

父上様

【令和八年十月靖国神社頭掲示】
愛しきものへ

出来ることからと県内慰霊碑・忠霊塔の清掃から開始。道中の車内で「学生と何か出来ないか」検討を始め、社協が毎年夏に主催するボランティア体験キャンプ(ナツボラ)を開きつけ、登録結果遺族会と関わり合いの多い多くの学生が参加し地域の戦没者を知る契機に。

また、既存の記念誌戦地から土佐(の手紙)と遺族からの寄稿文を動画とし、地元女子高校生に朗読してもらい「戦地からの手紙」を制作。自身の祖父から祖母、母に宛てた手紙、母から父への手紙を動画に収録した中岡氏は、動画制作をきっかけに母(遺児)から新たな思いを聞くことが出来た。96通にも及ぶ祖父からの手紙には年賀、松江からの壁掛け手紙、比島派遣の知らせ、神棚の奥にしまわれていた生後間もない娘に宛てた遺書など、家族への溢れる思いが綴られており、次世代へ伝えるメッセージだと涙ながらに伝えた。



祖父の手紙から記憶を継承する方途を伝える中岡美佳高知県青年部副部長＝9月12日、九段会館テラスで

全国各地の取り組み

平和の語り部

遺族会の「平和の語り部事業」は学校等、学生向けの実施を中心に据えている。体験者、次世代夫々が記憶の継承に取り組む各地の様子を伝えたい。

○山形県8月29・30日



次世代として語り部活動に取り組む決意を語る山岸正昭山形県青年部副部長＝8月30日、九段会館テラスで

九段短歌

選者 村田 信昌

ペリリユの「みたま」の前に安らけし折りし鶴掛け短歌を添えぬ

青森県 田中 恭子

記憶なく紫色の膳本の消された文字は果てなく辛い

東京都 木村百合子

武道館に誓ひし約束胸に秘め父を偲びて歌を詠み継ぐ

千葉県 石橋 嘉子

海暗く父知らぬ子らは声もなく酒くみかわす洋上慰霊

香川県 鈴木由紀子

(遺児)の講話、母の手記をまとめ満州からの引き揚げ、戦後の暮らし、遺児の思いを朗読劇として制作。青年部での上演を語り、次世代が伝える方途の広がりを見た。

併せて当日は神奈川県次世代林田智樹氏より祖(学生・次世代)。学校講話を実施する。

参加者からは学校講話の準備を進める一方、親会から記憶を聞き取る難しさ、自治体からの要請がない状況が報告された。山岸部長は自治体の温度差はあるが県は記憶継承に関する検討委員会を立ち上げ、遺族会も共に真剣な議論を重ねられていくと説明。その上で遺児の理解を得て記憶を聞き取り次世代として講話を重ねようと締め括った。

旧陸軍篠山練兵場跡(現丹波篠山総合スポーツセンター)二帯を視察。歩兵70連隊跡、陸軍病院レンガ門柱を視察。終戦までの38年間に10万人の若者が門をくぐったと説明。その後、昭和18年忠霊殿として創建され、戦後改称された遺芳殿を視察。神戸連隊区・八市三郡の約3万2千柱が祀られ、児童は城南小学校区の戦没者名を目にする。最後に石川英昭市遺族会長と会員の高橋京子氏が自身の体験を伝えた。

生徒に旧陸軍篠山練兵場跡を説明する遺族＝9月4日、丹波篠山市内で

地方だより

各支部遺族会で実施された大会等は次の通り。

徳島県 8月1日

16日 第20回特別企画展「沖繩の記録(記憶)」(千人)

佐賀県 8月11日

第2回「平和の語り部」

佐賀県大会(350人)

滋賀県 5月6日

8日 沖繩「近江の塔」

戦没者追悼・平和記念式典、中南部戦跡慰霊巡拝(41名)

第107回語り部事業(270人)

8月15日 第50回みた

ままつり・終戦記念式典

並びに県下戦没者慰霊祭

(100人)

8月29日 平和記念滋

賀県戦没者追悼式(57

0人)

青森県 8月27日

令和8年度青森県戦没者

遺族大会(134人)

徳島県 9月12日

お詫び

8月発行の第908号2面で、戦没者名を「小山正夫」氏と記載しましたが、「小山正人」氏の誤りでした。ここに訂正し、深謝いたします。